

令和7年度 大阪府立大正白稜高等学校 第3回 学校運営協議会 記録

司会：高山（教頭）

記録：槿原（教頭）

1.日時 令和8年3月4日(水) 11:30～13:00

2.場所 大阪府立大正白稜高等学校 校長室

3.出席者（五十音順）

◆協議会委員

角元 雄一	大正・港・西淀川ものづくり事業実行委員会 副委員長
坂本 由香	NPO 法人 FAIRROAD 代表理事（オンライン出席）
辻野 けんま	大阪公立大学准教授（オンライン出席）
仲村 実那子	本校PTA会長
村瀬 香織	大正東中学校校長
吉田 優子	株式会社アッテミー 代表（キャリアコンサルタント）

◆教職員

奥平 文	校長
高山 玄一	事務局員（教頭）
槿原 秀一	事務局員（教頭）
溝端 孝史	事務局員（事務長）

4. 議事

- I 令和7年度「学校経営計画」について
- II 令和8年度「学校経営計画」（案）について
- III 令和7年度 学校教育自己診断
- IV 今年度の取組みについて
- V その他

5. 説明・協議

I 令和7年度 学校経営計画及び学校評価 ⇒ 承認

II 令和8年度 学校経営計画（案） ⇒ 承認

III 令和7年度 学校教育自己診断

- 肯定的な評価：ICT（Chromebook やロイロノート）の活用については 92%と非常に高い肯定率。また、外部会場での体育祭実施についても、教職員の工夫により

高い評価を得た。

- 課題点：「学校に行くのが楽しい」という回答が 67%と低迷していることや、人前での発表に苦手意識を持つ生徒が多いこと（特に 1 年生）が浮き彫りになった。

Ⅳ 今年度の取組みについて

- 卒業生の実績と支援：今年度卒業した 89 名の生徒のうち、就職内定率は 100%を達成。一般入試で大阪経済大学に合格する生徒が出るなどの成果も上がった。
不登校や病気を抱える生徒に対しては、オンライン授業や通信教育を柔軟に組み合わせ、粘り強く卒業まで導いた。
- 教育活動の活性化：生徒の登校意欲を高める「朝ごはんプロジェクト」（¥150 でパンと飲み物を提供）の実施や、探究学習の発表会「白稜アワード」を通じて生徒が自信を深めた。
- 教職員のマネジメント：優秀教員団体としての受賞が決定し、教職員の自信に繋がった。また、働き方改革として時間外労働 720 時間超の教員を「ゼロ」にする目標を達成した。
- 校則見直しへの課題：ランチミーティングで生徒から出された校則見直し案に対し、教職員側からのフィードバックが滞っている現状を認め、改善の必要性を述べた。

Ⅴ その他（協議会委員からのご意見）

- 就職実績の評価：全国的に一時内定率が 5～10%低下する中で、前年並みの実績を維持していることは、生徒に合った会社を丁寧に見定めている証拠であり、誇るべき成果であると高く評価。
- 指導の「赤信号」の再定義：服装など指導が過剰になりすぎていないか、学校として「これだけは譲れない」という共通のライン（赤信号）を教職員間で問い直すべき。
- 組織のベクトル合わせ：先生によって指導の基準がバラバラにならないよう、「学校内の倫理観」を統一する会議を年度初めに行うことを推奨。これにより、組織が健全化し、生徒への対応も安定すると助言しました。

以上